

平成 29年度 山梨県立市川高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	生徒の健全な成長と自己実現を図るため、個々の能力や個性を最大限伸ばし、生きる力をはぐくむ学校づくりを目指す。	市川高等学校校長 丹沢 公彦
-----------	--------------------------------------------------------	----------------

本年度の重点目標	1 自ら学び、考える学習態度の育成	A ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4 良くできている。
	2 規範意識の向上と自律的な生活態度の育成	B 概ね達成できた。(6割以上)		3 できている。
	3 進路意識の高揚と勤労観・職業観の育成	C 不十分である。(4割以上)		2 あまりできていない。
		D 達成できなかった。(4割以下)		1 できていない。

自己評価			学校関係者評価				
本年度の重点目標			年度末評価(2月14日現在)				
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	実施日 (平成30年2月16日)	
						評価	
						意見・要望等	
1	自ら学び、考える学習態度の育成	知識・技能の着実な定着を図るためのICT活用等による学習指導の充実 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の推進 学習意欲の向上を図るための多様な評価方法の開発	生徒の授業アンケートでは肯定的回答の割合が、目標の明示82%、ポイントの明示89%、わかりやすい工夫86%であり、授業の充実化が示唆される。相互の授業参観では、アクティブラーニングの推進をテーマに年2回期間を設け、全教員がのべ4回の授業を参観し、自分の授業を見つめ直し、改善する取組を実施することができた。本年度は大学教授を招いたアクティブラーニングに関わる「学びあい」の研修会や基礎学力定着のためのクラッシーの活用に関わる研修会を年間4回実施した。	A	高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業の1年目で1学年を中心に学習習慣の改善と生徒への学びのPDCAサイクルの定着に挑戦したが、毎日の学習記録と教師のコメント、アンケートやWebテストによる継続的な振り返りの実施、アクティブラーニングの推進により、国数英の外部模擬試験で、全国平均以上の成績を持つ生徒が約2倍に増加した。次年度は学びの基礎診断試行の結果の分析と改善策を明確にした取組が課題である。	4	・朝の読書を実施しているが、先生方が指導に疲弊していることはないか。長年実施している行事で成果が見られるようであるが、一度立ち止まり、新たな視点で見ることにより、質的な改善ができる。 ・国の事業において、教育支援プラットフォームを活用した実践を行い、成果を上げているが、ネットワークの整備について、今後、関係各部署等に働きかけてよりよい環境を整えることも必要である。
2	規範意識の向上と自律的な生活態度の育成	あいさつやモラル・公共の場でのマナーの向上に向けて、生徒との対話を重視した生徒指導の推進 家庭・地域とのつながりを大切にしたい体験的な学習の推進 生徒の居場所づくりに努め、人間関係を築く力を育む取り組みの推進	年間を通して、間断なく朝の登校時の挨拶運動を実施した。キャリア人材バンク事業では、新たな講師の登録を推進し、生徒のニーズにあった事業を実施することができた。生徒評価によれば、生活全般における自主性・主体性の尊重、悩み等を相談できる人の存在、きめ細やかな教育相談について、肯定的な回答が増加し、改善が見られた。また、生徒会行事が生徒にとっていきいきできる場として認識されるようになった。	B	数年に渡る運動の継続により、校内にはあいさつが行き交う状況が定着している。教員はカウンセリングマインドを持ち、親身できめ細やかな対応を行い、保護者との信頼関係も改善している。また、地域と連携した様々な活動により、自分の生き方、在り方を考える機会が増加した。集団生活になじめない生徒に対して、各教員が連携し、外部の機関にも協力を得ながら対応したため、各生徒に改善が見られている。今後は取組の質的改善が求められる。	3	・生徒が素直なことはよいことであるが、その要因は何か再考することも必要である。人間は様々な形をもつが、市川の生徒は最初から丸い生徒たちではないのか。個性という点では生徒個々にアクティビティを身に付けていくことが必要である。 ・地域の成人式の様子を見ると大変おとなしい。社会の今後に一抔の不安も感じてしまう。 ・ある地域では知的格差の発露として、成人式等で不満が爆発する事例がある。地域の特性もあるのではないか。その特性を捉え、地域に必要な人材の資質等の検討をする機会があってもよい。
3	進路意識の高揚と勤労観・職業観の育成	自己の在り方生き方を考え、探究的・協働的な学びを柱とした「総合的な学習の時間」の充実 進路意識の高揚、勤労観・職業観の育成のための就業やボランティア活動の充実 社会参画の意識を高めるための政治的教養を育む教育の充実	総合的な学習における社会での在り方、生き方を考える機会の提供について、昨年度より評価が上昇した。進路意識高揚のための進路行事の適切な実施、日頃の学習をサポートするための機会の適切な設定、進路情報の的確な配付と活用、進路面談の計画的な実施と適切なアドバイスに関して、生徒から高評価を得た。本年度は、2学年全クラスで現代社会の授業において副読本を活用したグループワークを実施した。また、社会参画の意識高揚のための模擬裁判を実施した。	B	本年度は東京で行われた大規模な進学説明会に生徒が参加し、進路意識の高揚が見られている。ボランティア活動では地域の施設等の清掃や人的交流等を実施し、各生徒に意識の高まりが見られている。さらに、手話条例を制定した町の関係者による手話講座を新たに設定し、地域との連携を更に深めることができた。今後は、各取組の質的な改善と生徒の変容を分析的に捉え、探究活動を充実させるなど、より効果的な取組を実行していく必要がある。	3	・会社を経営していることから、面接等を行う機会が多い。見かけは様々だが全体的にどの若者も同類で、おとなしい。また、会話が成立しないこともあり、国語の力が必要であると実感している。言語活動の充実をさらに望む。